第 39 回１０R クラス選手権大会参戦記

記　J‐６８３　池田　成利



２０２６年 9 月27 日１０R クラス選手権が兵庫県加古郡　いなみ野水辺の里公園　跡池に於いて開催されました。例年、2 日に亘り開催されますが今年は参加艇数確保の為異例の単日開催となりました。　今年も７艇の猛者達が思考を凝らした艇で集まりました。その為、各選手は早朝の開錠前から会場前に集合しており皆の意気込みが開催前から熱くビシビシと伝わってきます。レースは既に始まっているのかも知れません。

１０R クラスは国内で最大の大型艇で実艇でも採用さてているレーティング（計算により艇の性能を図る）により制限されている艇種となります。一般的にボートスピードを上げるには造波抵抗（水の抵抗）を減らす為に水線長を長く設計し、パワーを大きくする為にセール面積を大きく取る事になりますが性能を均一化する為　造波抵抗を減らす為に水線長を長く取った場合はセール面積を小さくする。逆にパワーを上げる為にセール面積を大きくした場合は水線長を短くする（造波抵抗が大きくなる）といった様に制限があります。どの性能を追求するかで設計が大きく変わります。中強風で荒れた素面の場合はオーバーハング（喫水より上を前後に大きく（長く）取りヒール（傾くと）すると喫水が長くなる設計）が断然優位となります。弱風にポイントを置くと水線長は短くなりますがセール面積を大きく出来、パワーを上げる艇となります。（風速が上がってくるとオーバーパワーとなり

セールを小さくせざるを得ません。）故に　様々な艇が集まります。各艇を見ているだけでも色々思考を巡らせ楽しいものです。以前（昔？）は純テンと言われる大きなオーバーハング（スプーンバウ）を持った全長が１５００ｍｍに達する大型艇が主流でしたが　最近の流行り？はＲＭクラス（水線長１２９０ｍｍ）のハルに大きなセールを備えたタイプが多く見受けられます。また、リグの形式にも制限が無く今回エントリーの全艇がスイングリグを装備していました。これによりかなりの高速艇となります。しかも大型艇ならではの大きく優雅な走りになります。

気心知れたメンバーがそろい早々にスキッパーズミーティングを済ませコースの設営となります。今年度から本格稼働が始まった自走式マークでコースを設営を行って行きます。以前とは格段に速くスムースで離れた所から全体を見渡し俯瞰してマーク打ちが行えます。これは今回もエントリーされている橋本船長の３Ｄ プリンターにより出力された特注な一品です！これはホントに素晴らしい！！これでコース設営も自在です。天気予報とは裏腹に振れ回る風にも都度修正が容易で万全です！！これが４機ありコースも自在です。

天候は　これまでの暑さも収まり小春日和。天気が良すぎて肝心の風が風速１～３ｍ／ｓ弱く東から南へと廻る予報です。大型艇故、如何に艇を止めずに走るかが肝になりそうです。

第一レーステープが入りました。

7艇がスタートラインへと集まり緊張が高まります。普段乗り慣れない大型艇でスタート前のスペース取りが重要です。大型で重量もあることから各艇動き廻らずスタートラインに綺麗に並び艇を止める。ベテランの猛者ばかりで一番難しい“止める”をしっかりやって来ます。３０秒前にはすでにスペースがなくなります。上一番を狙い艇を止めれば空かさず５９番平尾艇が下にピッタリ張り付きます。その風下側に６１番池尻艇が少し間隔を空け陣取っています。スタートダッシュを決める為　フレッシュエアーを逃すまいと狙っています。「３、２、１，スタート！」一斉にスタート！６１番池尻艇が僅か角度を落としスピードつけ飛び出しました。その上側に何とかスタートしながらも高さ重視で６９番嵐田艇が迫って来ます。上マークで出遅れた４０番池島艇が追いつき 2 位でフィニッシュ。何とか上マークを切り抜け私はトップが取れました。

第二レース。　風が変わりコースがほとんど真逆へと変更となり第一上マークをトップ回航した４０番池島艇がトップフィニッシュし、続いて４７番宗助艇が続きました。

第三レース　天気予報では何とか天気が持ちそうな予報でしたが　雨雲接近のアラームが携帯に届きそれに間もなく風が落ちてしまいました。微風の厳しい状況です。大型艇故、止まってしまうと走り出しに時間がかかってしまい小さなミスから置いてけぼりに逢ってしまう状況です。トップフィニッシュには最短距離を走るのがセオリーですがそこにこだわり過ぎて高さを取りすぎると艇速が一気に落ちてしまいます。小さな風（パフ）をひらいつつ　何とかトップフィニッシュ。振り返ると他全艇がプカプカ状態・・・。しかっり稲美

の風穴にハマっていました。

第四レース　風が落ちた中、スタート。チューニングに悩んでいた５７番橋本艇が順調な走りを見せ下マークを回航を目指します。今回、上マーク回航に手間取り順位を落としていましたが下マークへ向けてのフリーで挽回し橋本艇に追いつき　稲美名物岸際の風周りゾーン？！でかろうじて返り咲きトップフィニッシュ出来ました。

第五レース　スタート後　風速減にたまらずレース委員会からコース短縮のコールがなされました。そこに４７番宗助艇がトップフィニッシュ、６９番嵐田艇が続きました。　目まぐるしく変わる風に翻弄されどの艇がトップになるか全く判らない僅差が続く状況です。

第六レース　午後からぽつぽつと雨が降りだしました。これで僅かな風紋もかき乱され風が見にくくなりました。そんな中でもレースはスタートします。超ベテランの経験が光り６９番嵐田艇が先ほど２位で入った技を活かしトップで入るも他が続かず全艇タイムアウト！全く歯が立たない！！

第七レース　ドラフトを深くし挑んだ甲斐がありトップフィニッシュ。二位には今回実力が発揮出来ていなかった５９番平尾艇が入りました。

第八レース　しとしとと雨が止まらない中、アグレッシブな走りを続けていた４７番宗助艇が２艇をタイムアウトにしながらトップフィニッシュとなりました。

今回　微風に雨が混じる厳しい天候で風が廻る環境で誰もがトップを取るなど予想の付かないレース展開となり微風ながらも走り出したら止まらない大型艇ならではの走りでシビアな操船を要求されスティック一コマが勝敗を分けた様に痛感しました。

今年はイレギュラーな開催にも関わらず会場準備にご協力頂きましたイナミフリートの皆様、運営をサポート頂きました御二方に感謝致します。ありがとうございました。

